



深まる秋！ 読書する楽しさを学校と家庭で！



本校では、今日から「読書旬間」です。「読書の秋」とも言われますが、過ごしやすいこの時季に、子どもたちには『本』に親しんでほしいと願っています。

子どもたちの読書活動は、好きな本を読むだけにとどまらず、情報を主体的に読み解き、考えの形成に生かしていく読書（インタラクティブ・リーディング）の必要性が指摘されています。小学校低学年における語彙の

量と質の違いが学力差に大きく影響していると言われており、言語能力を育てていくことは小学校において大切なことです。また、幼児期から学童期にかけての読書能力形成が、その後の社会的・職業的な自立に向けた学びに影響するという指摘もあり、子どもの読書活動を推進するためには、学校教育だけでなく、家庭や社会全体で考えていかなければなりません。

詳しくは10/29配付の「あしたかライブラリー読書旬間号」（11月号）をご覧ください。

読書旬間！

11/8（火）～18日（金）

- ★朝読書★（本を忘れずに！）
毎朝10分、読書に親しみます。
- ★わくわくスタンプラリー★
本を借りると、スタンプや特典がもらえます。お楽しみに！
- ★図書クイズ★（図書委員会）
全問正解するとプレゼントあり！
- ★倉敷すいせん図書の紹介★
- ★しおりコンテスト★
- ★読書郵便★
お互いにお気に入りの本を紹介！
- ★多読賞（読書大好き賞）★
学年ごとに、一番たくさん本を読んだ人を紹介します。
- ★ストーリーテリング★（2・4年生）
ボランティアの方から、読書の世界が広がるようなお話を聞きます。

近年、スマートフォン等の普及に伴い、情報通信技術（ICT）を利用する時間が増加傾向にあります。情報に触れることは容易になる一方で、視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、情報の意味の吟味や文章の構造、内容を的確に捉えて読解する機会が少なくなってきており、特に学年が進むにつれてその傾向が明らかになっているようです。

子どもたちが良い図書と出会い、言葉を学び、豊かな感性を磨いて表現力を高めるとともに、自分の考えを形成し、適切な表現で相手に伝えることを通して、豊かな人生を送ることは大切です。

また、家庭環境等の変化により、家庭で落ち着いて本を読む機会が少なくなっているという意見もあり、特に、高学年から中学校に向けては、時間の確保も大きな課題です。しかし、読書する習慣形成は小学校段階ではとても大切なことです。

「大人の読書姿を子どもに見せることで、子どもは読書に関心をもつようになる。」という調査結果を、昨年度の学校通信でも紹介しましたが、家庭で一定の時間（夕食後や寝る前等の15分程度）テレビやスマートフォンを使わない時間を設定し、家族みんなが読書に専念することで、読書に慣れ親しむ子どもが育つ環境づくりの第一歩とすることができるという取組があります。その時間は、とても静寂で、心落ち着く時間となるそうです。

学校でも、右に紹介している様々な取組で、子どもたちが「良い図書」にめぐり合い、読書に親しむ環境を整備してまいります。ご家庭でも、それぞれに無理なくできる読書環境を工夫しながら、親子で「読書の秋」を満喫できることを願っています。

校長 藤井 朗

読書っておもしろいね。



うん！